長上地区

●村の変遷●

昭和2年（1927）市野村と天王村が合併して長上村が誕生しました。当時の市野村は、上石田村、小池村、市野村の三つの村からなり、戸数466戸、人口は2,516人でした。

一方天王村は、下石田村、天王新田村、下堀村、天王村、中田村、原島村の六つの村からなり、戸数331戸、人口は1,831人でした。昭和29年（1954）、長上村は浜松市に合併しました。

①宗安寺 C-4

室町時代末期に開創された曹洞宗の古刹です。また、江戸時代初期、この地域の代官を務めた市野氏歴代の菩提寺として知られ、墓苑には初代惣太夫実久から以後4代までの歴代の墓が並んでいます。

境内にある三重の塔は、檀家である鈴木六郎氏が寄贈したものであり、聖観世音菩薩が祀られています。

②市野宿(昔の町並み) C-4

江戸時代、東海道の脇街道として旅人が行き交った姫街道には市野、気賀、三ヶ日、嵩山の四宿があり、市野宿には本陣・脇本陣が置かれていましたが、現存はしていません。

町内の旧家斉藤家には古文書や高札などが残り、街道には昔ながらの情緒を感じさせる家並みが続いていました。

⑥浜松いちのビオトープ（市野町） B-5

遊水地を有効活用し、多様な生物が生息できるだけでなく、市民の憩いの場となることを目的に、池や小川、草地などのビオトープを3ヶ所の遊水地内に造成しています。

⑦安養寺遺跡（あんようじいせき） C-4

天竜川の移り変わりによって生まれた長上の「自然堤防」にも、稲作技術と文化をもった弥生の人々が移り住むようになりました。およそ1800年前と考えられています。これが、市野町安養寺遺跡です。

⑧姫街道の奥山道標（ひめかいどう の おくやまどうひょう） C-5

市野宿の軒並はずれ、姫街道と橋羽往還の交差点北側の清水宅の屋敷内にある丁石。輸送機関が発達していない当時、徒歩での旅人のための道標です。

⑨熊野神社の宝篋印塔（くまのじんじゃ の ほうきょういんとう） C-5

延享3年（1746）建立された、高さ約3.5mの塔です。宝篋印塔とは、インドのアショカ王が、お釈迦様の仏舎利を八万四千の塔に分骨した故事にならったもので、日本では、鎌倉時代以降に盛んに建立されました。この中には宝篋印陀羅尼経が納められています。

③中田公園 B-5

アスレチック広場には大きな滑り台や遊具があり、多くの人が楽しめる場を提供しています。また、災害時の避難場所と救護活動に配慮した施設が整った公園です。

④安養寺のマキ C-4

高さ18m、幹周2mにもなる力強い樹形がひときわ目を引くこのマキは、昭和62年（1987）10月15日浜松市の保存樹（保存樹第36号）に指定されました。マキは、マキ科マキ属の常緑針葉高木で、雌雄異株で樹皮は白っぽい褐色、茎は真っ直ぐに伸びます。風に強いマキは、庭木や防風林として重宝されています。

⑤下石田報徳社 C-5

二宮尊徳の勤労、勤勉、生活改善を教える報徳精神の布教のため、下石田村の神谷与平治森之らは弘化4年（1847）遠州で最初の下石田報徳社を設立し、農村の復興と地域社会の興隆に寄与しました。報徳運動は周辺の村々に与える影響も大きく、次第に結社を設立する村が相次ぎ、明治8年（1875）遠江国報徳社の結社創設につながりました。

⑩げんべいの石神様（げんべい の いしがみさま） C-5

江戸時代ごろ、この近くを流れていた「げんべい川」に汚れ物を流していたところ、怪我人や病人が続出しました。川の中から石神様を拾いあげ丁寧にお祀りすると、災難がなくなったと伝えられています。

⑪芭蕉の句碑（ばしょう の くひ） C-5

下石田の庚申堂に建立されています。句は芭蕉の「笈の小文」に所収されているもので、高さ約1mの天竜自然石に刻まれています。

「草臥れて 宿かるころや 藤の花」

芭蕉

⑫大歳神社（おおとしじんじゃ） C-5

「疫病除けと花火の天王さま」として知られ、歴史は平安時代にさかのぼります。8月1日に近い土・日の大祭には数百発の花火が打ち上げられます。

⑬遠州報国隊記念碑（えんしゅうほうこくたいきねんひ） C-5

遠州報国隊は幕末、討幕軍の東征に応じた、遠州地方を中心とした「民兵隊」をいいます。隊員は、江戸までのぼり、幕府側の彰義隊と戦い、浜松に帰陣しました。これを記念して建立されました。